

2023年3月30日

日本レムナント大会（子ども宣教局）学院福音化メッセージ

シム・ジュウファン先生

4月の学院福音化は、ローマ人への手紙です。次の3つの聖句がいちばん大切です。

ローマ 3:10

それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもいない。」

ローマ 3:23

すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

ローマ 6:23

罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

私たちは、生まれながら滅びるしかない罪人です。義人でも悪人でもなく、ただなにもないです。

罪を犯したからです。「ひとりも」義人がいません。これこそ、Nothingです。

「罪から来る報酬は死です」ここからが始まりです。

神様は創造の神様です。創造というのは、「無」「空」なにもないことが前提でなければなりません。なにかがあれば「変更」です。創造というのは、なにもない状態「なし」から「ある」になることです。

私たちは、罪人であり、義人でなく死んだ状態でした。そこに神様が「いのちの息」を吹き込んでくださって「生き物」となりました。それが私です。「息」というのは、「神のかたち」であって、目に見えない靈的存在なので、神の靈が宿る人として造られたということです。

ヨハネ 1:10-12

10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。

11 この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかつた。

12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

「世はこの方を知らなかつた」つまり、ひとりも知る人はいなかつたということです。Nothing

「ご自分の民は受け入れなかつた」つまり、受け入れる人はひとりもいなかつたということです。Nobody

「しかし、この方を受け入れた人々」とあります。ひとりもいないので、死んでいるので受け入れができる人はひとりもいないので、「受け入れた人々」とあります。おかしくないでしょうか。

信仰は、私たちから始まるのではありません。神様がくださったからこそ、信じることができます。ギリシャ語の原語では「その名を通して受け入れる人がいる」ということです。「イエス・キリストが先に受け入れてくださったからこそ、イエス様を信じるようになる人がいる」ということが、ヨハネ1:12のことです。

完全に死んでいた私たちです。動くことも、考えることも、なにかすることもできない者ですから、なにかを見て、聞いて、信じるわけではありません。その中で、ローマ 1:17 を見ましょう。

ローマ 1:17

なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。
「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

「福音の内には神の義が啓示されている」この福音は「イエス・キリスト」です。イエス・キリストの中に神の義が啓示されています。

「神の義」というのは、神様が父としての自分の義務、役割を忠実にすることです。

「わたしはあなたたちを、わたしの子どもとする。わたしの民とする。必ずする」と言われた約束を忠実に行ってくださったので、それを「神の義」と言います。

福音の中に神の義があり、それを私たちのものとするために必要なのが「信仰」です。

「その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです」

ここで、信仰に2種類あるかのように見えます。始まる信仰、終わる信仰があります。

これをヘブル 12:2 に書いてあります。

ヘブル 12: 2

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。…

ですから、信仰の創始者であるイエス・キリストから信仰が始まり、信仰の完成者であるイエス・キリストによって、信仰の最後まで進ませるのです。それは、永遠のいのちです。神の国、御座です。いまは目に見えないので、いつも求めて御座の祝福、力を祈りますが、もう完成された神の国、御座の祝福があるのです。黙示録の世界にあります。

それが私のものになります。

使徒 2:17-18 の預言、幻、夢を見ることがそれです。

私たちがこの世で自分で願うなにかができる夢を見るのではなく、神様が完成されたその世界です。私たちが思う神の国、天国はどのような世界でしょうか。宝がいっぱいあり、金銀、宝石ばかりの神の国ではありません。完全にみことばだけで十分に生きることができる世界です。

信仰というのは、「私たちが信じます」と言って信じるのではなく、創始者、完成者であるイエス・キリストが私たちにくださることです。だからこそ、私たちはイエスがキリストだと告白できるのです。

ローマ 5:8 にも神様の恵みが完全に現れています。

ローマ 5:6 を見ましょう。

私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。

私たちが「弱かった」「不敬虔な者」であったとき、イエス様が私たちのために死んでくださいました。

ローマ 5:8

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

パウロが、元々の自分の座を告白しています。なにかができる存在ではなく、神様の恵みでなければなにもすることはできませんという告白です。10節にも「もし敵であった私たちが」と言っています。神様と完全に敵対していた者だったとき、イエス・キリストの死によって私たちは生かされて、その十字架の中に神様の愛が明らかにされているということです。

これが恵みです。

いま流れている「やぐらを建てよう」「サミットになろう」というメッセージは、もちろん、神様がそうしてくださいます。しかし、そのために私たちがなにか努力をしてたどり着くのではなく、完全に備えられている神様の目標ですから、神様の恵みによって私たちが引っ張られて行くことが恵みです。

ペテロが「あなたは生ける神の御子キリストです」と告白したとき、イエス様はいろいろな祝福をしてくださいました。そのあと「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」言われます。ですから、自分を否定することがとても大事だと思います。

子どもたちには伝えられませんが、働き人であるみなさんは、単に子どもたちを祝福するのではなく、この子たちがどこから救われて、どんな恵みによって神様に用いられるのかを見ながら、メッセージを伝えてください。パウロがローマ人への手紙にそれをずっと書いています。「死と罪の原理から、いのちの御靈の原理によって解放された」とローマ 8:2 で言っています。

学院福音化1課はローマ人への手紙という聖書がなにかを説明してあり、2課から4課までは、ローマ人への手紙全体を見る所以ができるので、上に語った観点を持って子どもたちに伝えてください。信仰はまず、イエス・キリストから始まる。私たちがなにかをすることによって神様に用いられるのではなく、ただ、いま、みことばと祈りに挑戦して、神様がとともにおられることを味わっているなら、神様が備えられた未来に私たちを導いてくださるのであります。